

報道関係者各位
(参考資料)

2014年2月18日
株式会社インターネットイニシアティブ

IIJ、インターネットの最新の技術動向・セキュリティ情報のレポート **「Internet Infrastructure Review」Vol.22 を発行**

株式会社インターネットイニシアティブ(IIJ、本社:東京都千代田区、代表取締役社長:勝 栄二郎、コード番号:3774 東証第一部)は、インターネットの基盤技術に関する最新動向や、セキュリティ情報を紹介する技術レポート「Internet Infrastructure Review (IIR)」の Vol.22 を本日発行いたしました。

今号では2013年10月から12月までの3ヵ月間に発生したインシデントと期間中に発生したセキュリティ関連の着目すべき事象について解説をしています。さらに IIJ GIO(ジオ)サービスの基盤技術、Webトラフィック分析について取り上げます。

今号のトピックは以下のとおりです。

◆期間内のインシデント動向

- 数千万人分のユーザ ID/パスワードが漏えいする事件や、オンラインサービスに対するリスト型攻撃が発生した。12月にはNTPサーバを踏み台としたDDoS攻撃が複数発生した。

◆フォーカスリサーチ

- 大容量メモリを搭載した端末のメモリをフォレンジック(コンピュータに関する犯罪や法的紛争が生じた際に、原因究明や捜査に必要な機器やデータ、電子的記録を収集・分析し、その法的な証拠性を明らかにする手段や技術の総称)する際には、解析ツールの特性を理解したうえで利用しないと、揮発性の情報を全く抽出できない場合がある。
- 昨年末から主要SNSのSSL/TLSサーバ等で、一時的な鍵ペアを作成することで秘密情報の漏えいを防ぐ技術 Forward Secrecy への対応が進められている。Forward Secrecy は、米国家安全保障局(NSA)による通信傍受に関する一連の報道で注目されるようになった。
- IIJ は Web クローラを利用して、多数の Web サイトを巡回し、改ざんサイトの増減や、改ざんサイト経由でマルウェアを配布する際に悪用される脆弱性の傾向などを調査している。日本国内では、Java 実行環境や、Internet Explorer の脆弱性を悪用したマルウェア感染行為が連日観測された。

◆クラウドサービス「IIJ GIO」の基盤技術

- IIJ GIO の利用目的は、一般的な Web システムから大容量のデータを扱うエンタープライズシステムへと広がっている。

- クラウドサービスを提供するための、データセンターの工事現場やサーバの設置方法について写真を交えて紹介。

◆Webトラフィック分析

- 現在の Web は JavaScript を用いた動的でインタラクティブな Web アプリケーションへと変化してきており、トラフィックもその影響を受けている。
- JavaScript の実行により他のコンテンツの処理がブロックされて応答速度が遅くなる例が、多くの Web アプリケーションで散見される。しかし、コンテンツの階層構造の多様化やユーザの Web 利用環境の多様化も遅延の原因として考慮に入れる必要があり、判断はますます難しくなっている。

以下のサイトで IIR の全文をご覧ください。

<http://www.ij.ad.jp/company/development/report/iir/index.html>

【IIR について】

「Internet Infrastructure Review」は、インターネットが抱える技術的課題についての認識を、関連する多くの機関やお客様と共有することで、インターネットが安心、安全な社会基盤として発展する一助となることを目指し、2008年10月より季刊で年4回発行している技術レポートです。IJがインシデント観測の仕組みで収集した各種攻撃の傾向と対策に関する情報や、インターネットバックボーンの運用を通して蓄積した技術的知見を掲載しています。

報道関係お問い合わせ先

株式会社インターネットイニシアティブ 広報部 小河、村松

TEL: 03-5259-6310 FAX: 03-5259-6311

E-mail: press@ij.ad.jp URL: <http://www.ij.ad.jp/>